

# 日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 工原 No.11【標準原価計算の仕損・減損】

収録日：平成 25 年 8 月 31 日

## 【出題実績】

日商簿記 1 級過去問 113 回

全経簿記上級過去問 161 回

	検定簿記講義	サク	スッキリ	教科書
ページ数	12	23	34	
減損率の考え方	◎	◎	◎	
第 1 法の原価標準と差異分析	◎	◎	◎	
第 2 法の原価標準と差異分析	◎	◎	◎	

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い  
（「弱い」は「ない」を含みます）

●他の箇所の説明又は例題あり

標準原価計算のヤマ場その 1 です。

忘れたところに問われる論点です。

今回の講座を聞いた後、試験直前に必ず確認しておいて下さい。

## 原価標準に仕損いれないとどうなる？

工場長の立場に立って考えてください。1 個つくるのに 10Kg の標準消費量で 10 個作ったら 100Kg のはず。でも仕損があったので 105Kg 使っていた。「ああどうしよう。社長に叱られる」これでは、工場長が可哀想すぎます。

せめて、5%は仕損の予算を認めてあげよう。そうすると・・・100Kg の標準消費量に 5%なら 105Kg のはず。そういう話です

<例題で説明しましょう>

原価標準は右のとおり

仕掛品 BOX (直接材料費) は下記の通り  
(実際の仕損は 30 個発生していた)

実際は@320 円×820Kg だったとします。

原価標準	
(材)300×2 kg	=600
(労)500×3 時間	=1,500
(間)750×3 時間	=2,250
	<u>4,350</u>

生産データ	
完成品	300
月末	50 (70%)
仕損	30 (終点)

仕掛品 (直接材料)	
	0
(350×2)	300
300×700	350
=210,000	
	50

仕損はないものとして BOX 作ってみます  
(2 級と同じ)

「700 kg でいけたはず」なのに「820 kg もかかっちゃた」

## 差異分析

@ 320

@ 300

	Δ36,000

700 kg (350×2)  
良品

820 kg  
良品  
 { 正常  
 異常  
 ムダ (純粋な数量差異)

「正常仕損と異常仕損とムダが差異に含まれている」  
これでは工場長は可哀そう

「社長、原価カードに仕損を組み入れてください」

ではここから工場長の要望を聞いて、度外視法 (第 1 法) と非度外視法 (第 2 法) の 2 種類の考え方で差異分析をしてみましょう。

## 第1法=度外視法的

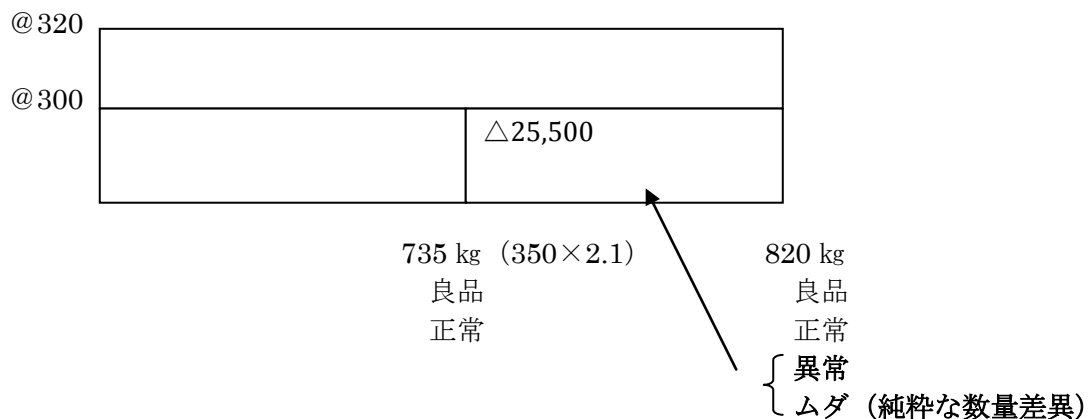
度外視法（簡便法）の本来の考え方は、常に両者負担。簡便法だから、仕損の発生地点など考えない。下記のような問題形式になります。

当工場では工程の終点にチェッカーがいる。正常仕損率はチェッカーを通過した良品の5%とし、それを超える仕損は異常仕損とする。なお、以上仕損には正常仕損費を負担させない。実際の仕損は30だった

原価カードは下記のようになります

原価標準	
(材)300×2.1 kg	=630
(労)500×3.15 時間	=1,575
(間)750×3.15 時間	= <u>2,362.5</u>
	<u><u>4,567.5</u></u>

原価カードで材料費の差異分析をしてみよう



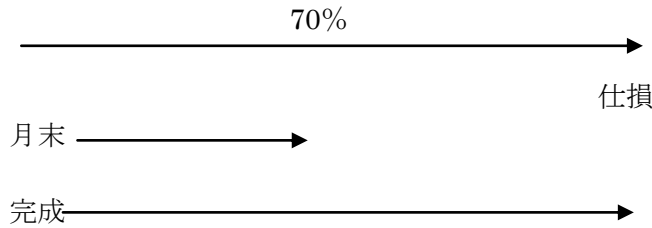
「異常減損とムダが差異に含まれている」

工場長の責任はムダだけのはず。まだ、工場長は可哀そう

実際消費量や実際金額には、必ず良品・正常仕損・異常仕損・ムダが含まれている事を意識しておいてください

では、この例題を非度外視法（第2法）で考えてみましょう。

第2法=非度外視法的



完成品にかかるコストと同じコストを投入してから仕損発生（100%加工してから仕損）

100 個完成して 5 個仕損

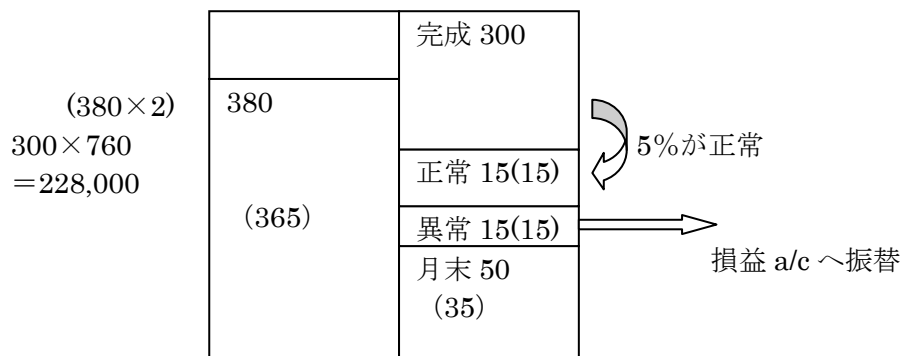
100 個完成で 100 個仕損なら 1 個の完成品は 1 個分（4,350 円）の仕損を負担する  
 でも、100 個完成で 5 個仕損だから、1 個の完成品は 0.05 個分（217.5 円）の仕損を負担する

原価カードは下記のようになります

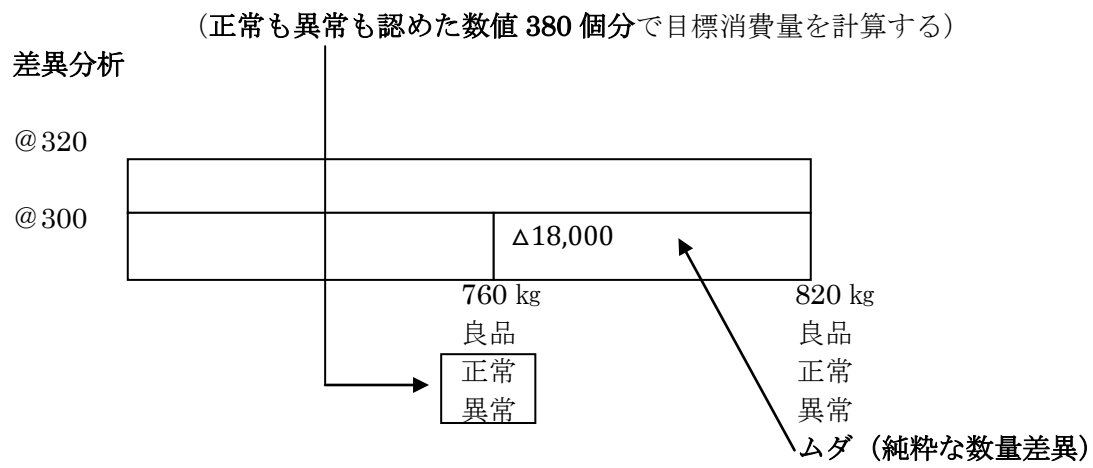
原価標準	
(材)300×2 kg	= 600
(労)500×3 時間	= 1,500
(間)750×3 時間	= <u>2,250</u>
	<u>4,350</u>
正常仕損費	217.5
合計	4,567.5

ちなみに、仕損品に 350 円の評価額があったら  
 仕損費 = (4,350 - 350) × 0.05 = 200 円 という計算になります

BOXの書き方（統一しよう）



「760 kgでいけたはず」なのに「820 kgもかかった」



これで工場長は納得  
試験では第 2 法が出ると考えてください

勘定記入問題の解き方

(BOX をみながら原価標準の材料と加工費を乗じるだけ！！)  
 (仕損の金額は考えなくてよい！完成品の検算用と考えよう)

仕掛品

材料 $380 \times 600 = 228,000$	製品 $300 \times 4,350 = 1,305,000$
加工費 $365 \times 3,750 = 1,368,750$	(正常) $15 \times 600 = 9,000$ $15 \times 3,750 = 56,250$
	損益 $15 \times 600 = 9,000$ $15 \times 3,750 = 56,250$
	次月 $50 \times 600 = 30,000$ $35 \times 3,750 = 131,250$

もしも仕損品に評価額 350 円あれば  
 下記のように記入します

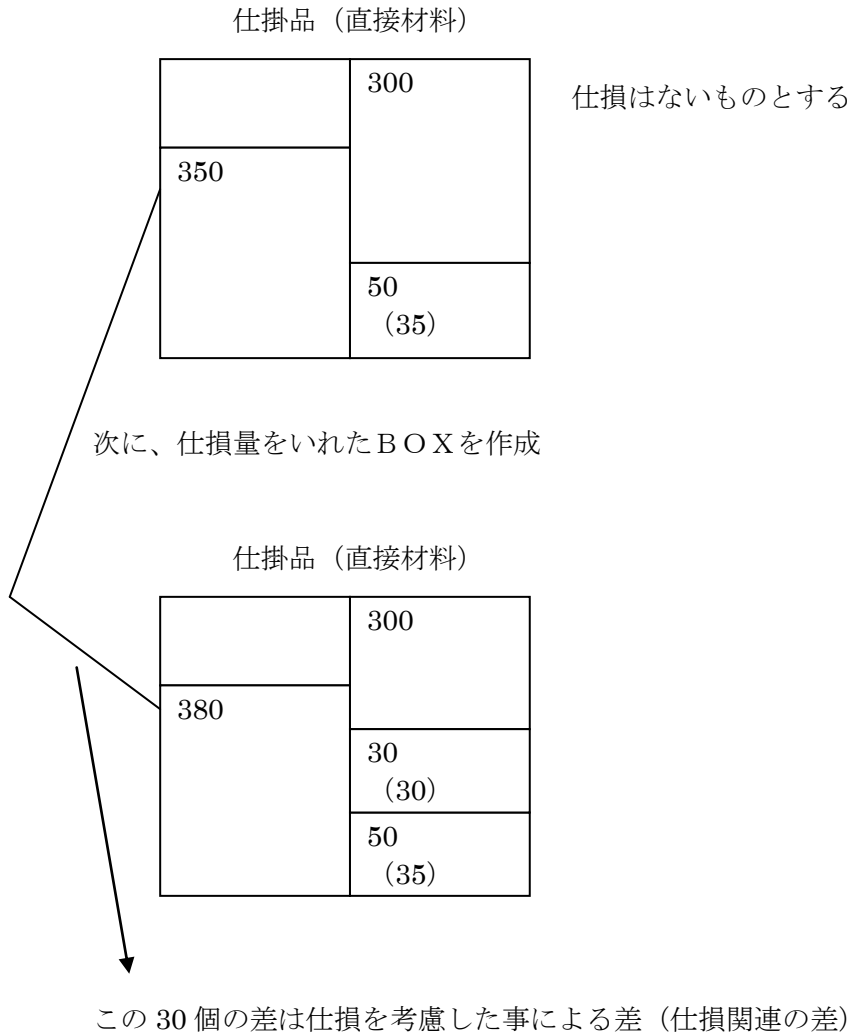
仕掛品

材料 $380 \times 600 = 228,000$	製品 $300 \times 4,350 = 1,305,000$	
加工費 $365 \times 3,750 = 1,368,750$	(正常) $15 \times 600 = 9,000$ $15 \times 3,750 = 56,250$	$\triangle 5,250$
	損益 $15 \times 600 = 9,000$ $15 \times 3,750 = 56,250$	$\triangle 5,250$
	次月 $50 \times 600 = 30,000$ $35 \times 3,750 = 131,250$	

## 仕損関連差異と無関連差異

③当工場では原価標準に仕損費を含めていない（でも仕損量は把握している）

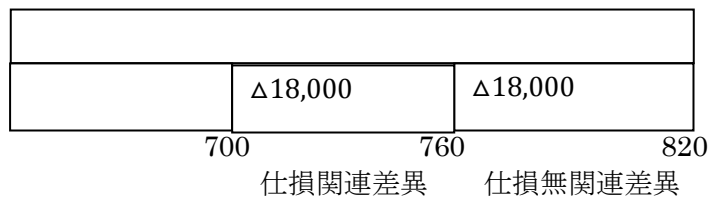
仕損を無視してBOXと原価標準を作成（2級と同じ）



## 差異分析

@ 320

@ 300

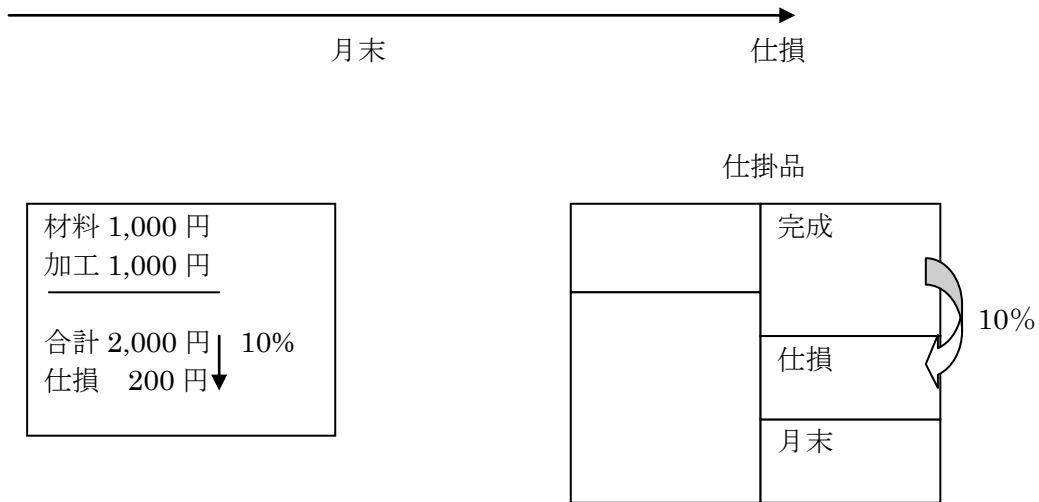


全経簿記 161 回工業簿記を実施してみてください（15分）ダウンロード講座で解説します

配っていない

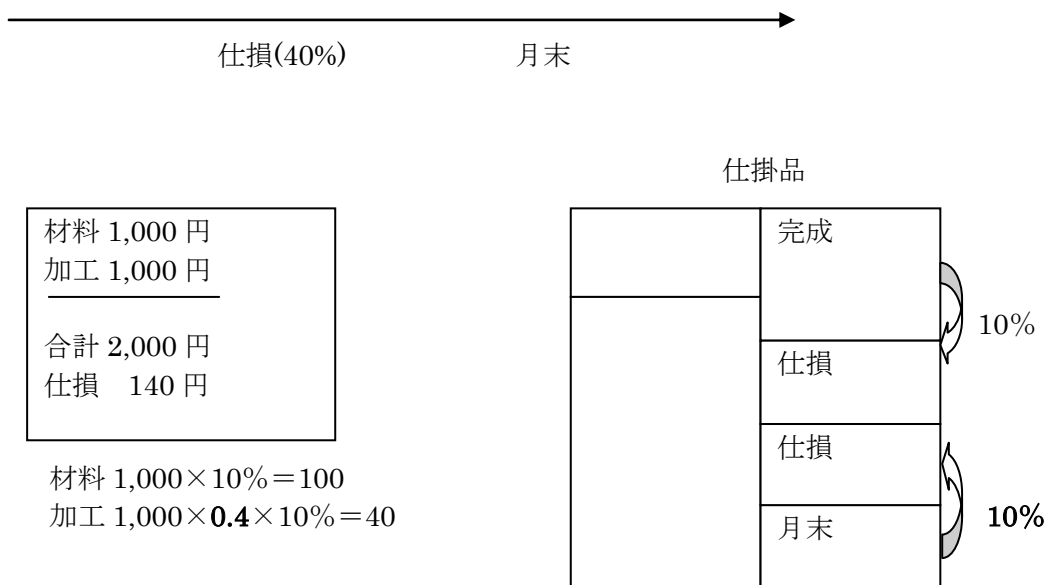
<追加論点>

終点発生



工程途中の一定点発生

(仕損費の計算方法と月末仕掛品からも仕損発生する事がポイント)






## 減損率でよくあるケアレスミス

検査点を通過した良品の5%（例は終点発生）

完成品が 1,000

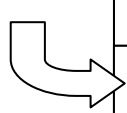
	1,000
	仕損 50



投入量の5%

投入量は 1,000

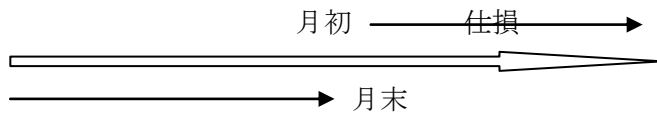
1000	950
	仕損 50



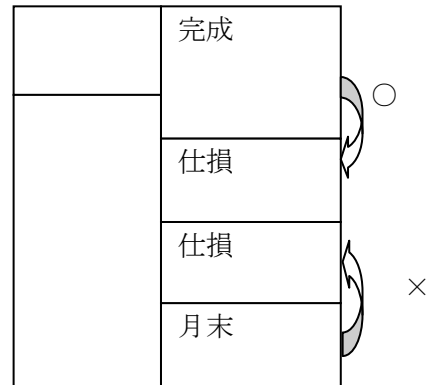
この場合は 100 投入で 95 の完成品に 5 という意味

## 月初仕掛品の取り扱い

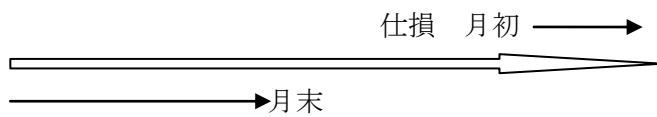
### パターン1



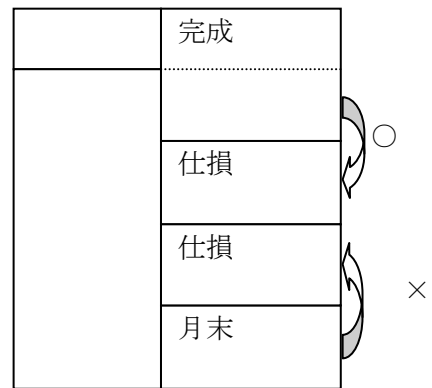
当月、「月末から仕掛出ない、月初から減損出る」



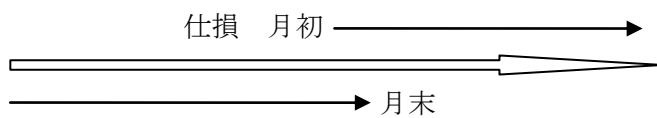
### パターン2



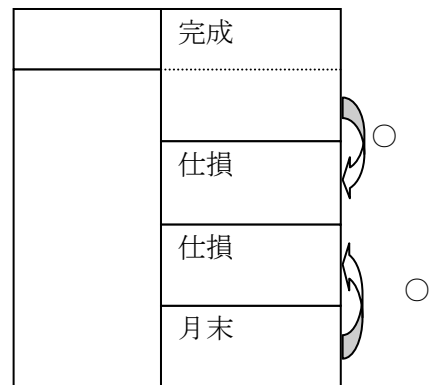
当月、「月初からも月末からも仕掛出ない」



### パターン3



当月、「月初から仕掛出ない、月末からは出る」



いずれのパターンも原価標準作成⇒BOX作成⇒数量記入⇒換算量記入

(特に換算量の記入でいろいろ考えると間違ふ。換算量は進捗度をかけるだけ)